

JIS

防護服－機械的特性－ 鋭利物に対する切創抵抗性試験方法

JIS T 8052 : 2005

(JSAA/JSA)

平成 17 年 12 月 25 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 労働安全用具技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	吉 識 晴 夫	帝京平成大学
(委員)	芦 谷 彰 克	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
	市 川 健 二	社団法人産業安全技術協会
	小 川 孝 裕	財団法人日本防災協会
	笠 井 一 治	日本安全靴工業会
	竹 内 宣 博	株式会社千代田テクノ
	谷 澤 和 彦	日本安全帽工業会
	利 岡 信 和	社団法人日本保安用品協会
	中 村 富 也	厚生労働省
	西 本 右 子	神奈川大学
	能 見 和 司	電気事業連合会
	明 星 敏 彦	独立行政法人産業医学総合研究所
	村 上 博 幸	日本原子力研究所
	森 正 晴	川重防災工業株式会社
	山 崎 弘 志	建設業労働災害防止協会
	山 本 為 信	山本光学株式会社
	吉 田 孝 一	社団法人日本電機工業会

主 務 大 臣：厚生労働大臣， 経済産業大臣 制定：平成 17.12.25

官 報 公 示：平成 17.12.26

原 案 作 成 者：社団法人日本保安用品協会

(〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-15 和光湯島ビル TEL 03-5804-3125)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：労働安全用具技術専門委員会 (委員長 吉識 晴夫)

この規格についての意見又は質問は，上記原案作成者，厚生労働省労働基準局 安全衛生部労働衛生課環境改善室 [〒100-8916 東京都千代田区霞が関 1-2-2 TEL 03-5253-1111 (代表)] 又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 [〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお，日本工業規格は，工業標準化法第 15 条の規定によって，少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され，速やかに，確認，改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本保安用品協会(JSAA)／財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、厚生労働大臣及び経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

制定に当たっては、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎にした国際規格原案の提案を容易にするために、**ISO 13997:1999, Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects** を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。厚生労働大臣、経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任をもたない。

JIS T 8052 には、次に示す附属書がある。

附属書 A (参考) 切創試験の詳細説明

附属書 B (参考) この規格に適合する装置

附属書 1 (参考) **JIS** と対応する国際規格との対比表

目 次

	ページ
序文.....	1
1. 適用範囲.....	1
2. 引用規格.....	1
3. 定義.....	1
4. 試験片採取.....	1
4.1 試験片.....	1
4.2 採取方向.....	2
4.3 試験片寸法.....	2
4.4 試験片の調整.....	2
5. 試験方法.....	2
5.1 原理.....	2
5.2 試験装置.....	2
5.3 試験手順.....	3
6. 試験報告書.....	4
附属書 A (参考) 切創試験の詳細説明.....	6
附属書 B (参考) この規格に適合する装置.....	8
附属書 1 (参考) JIS と対応する国際規格との対比表.....	10
解 説.....	12

防護服—機械的特性— 鋭利物に対する切創抵抗性試験方法

Protective clothing — Mechanical properties — Determination of resistance to cutting by sharp objects

序文 この規格は、1999年に第1版として発行された **ISO 13997**, Protective clothing—Mechanical properties—Determination of resistance to cutting by sharp objects を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書 1 (参考)** に示す。

1. 適用範囲 この規格は、防護服用に設計された材料及び組立て部品のナイフ、金属薄板部品、金属切りくず、ガラス、刃のある工具、鋳造物などの鋭利な物に対する、切創抵抗性試験方法について規定する。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 13997:1999, Protective clothing—Mechanical properties—Determination of resistance to cutting by sharp objects (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版 (追補を含む。) を適用する。

JIS L 0105 繊維製品の物理試験方法通則

備考 **ISO 139:1973**, Textiles—Standard atmospheres for conditioning and testing からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

3.1 カットスルー (cut-through) 試験用刃物の刃先が試験片を貫通し、その下の導電性材料に最初に接触するときにかかる事象。

3.2 切創力 (cutting force) 標準的な鋭さの試験用刃物を用い、20 mm 長の 1 ストローク (1 回、20 mm 引くこと。) によって、材料をカットスルーするのに必要とされる力として算出された値。

3.3 切創ストローク長 (cutting stroke length) カットスルーが起こるまでの刃先が進む距離。

4. 試験片採取

4.1 試験片 試験片は、身体防護部位の各種の構成を代表している製品試料から、又は製品の様々な品